

国語 第6学年 漢文に親しもう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を私の学級に合わせて直してください。初めに、学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や配慮、使える時間と本時の位置、ICTと紙の道具の条件を一項目ずつ質問し、答えを待ってから次の質問へ進んでください。条件がそろったら、漢文の響きや調子という目標を保ち、音読と感想の記録で学びを確認できるように全体を直してください。教科書の本文や台詞、挿絵、固有の問題は転載しないでください。配当時数は出典に従い、活動の配分を提案する場合は提案と明示してください。児童の姿を実測済みの事実として創作しないでください。三重の指導案の見出しの順と評価の三観点を保ち、内部IDなどを先生向けの文章へ出さないでください。変更箇所と根拠を示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名「漢文に親しもう」 教材名「漢文に親しもう」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、古典の大意を確かめながら音読し、言葉の響きや調子に親しんでいる。思考・判断・表現では、教科書で扱う漢文の読みと大意に親しみ、感じたことを自分の言葉で書いて表現を整える。交流や試行の前後を比べ、音読と感想の記録を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①古典の大意を確かめながら音読し、言葉の響きや調子に親しんでいる。〔知識及び技能〕(3)ア)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、教科書で扱う漢文の読みと大意に親しみ、感じたことを自分の言葉で書いて表現を整えている。(B(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、漢文の響きや調子を中心に学ぶ。教科書で扱う漢文の読みと大意に親しみ、感じたことを自分の言葉で書いて表現を整える活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(3)アとB(1)エに関係する学習である。成果は、音読と感想の記録に示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

予想される難しさは、現代語と同じ語順で読もうとすることである。教師の読みを聞き、大意を確かめてから自分の感想を書く。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

第1次 第1時：○漢文の響きや調子に関係する既習を振り返る。○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す音読と感想の記録の内容を確認する。 評価：既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。

第2次 第2時（本時は2時）：○教科書で扱う漢文の読みと大意に親しみ、感じたことを自分の言葉で書いて表現を整える。○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。○響きから感じたことをどんな言葉で表すかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。 評価：知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）

第3次 第3時：○音読と感想の記録を仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。 評価：思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）

6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

教科書で扱う漢文の読みと大意に親しみ、感じたことを自分の言葉で書いて表現を整えることができる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。

○「響きから感じたことをどんな言葉で表すか」

【めあて】漢文の響きや調子について、自分の考えと理由を表そう。

予想される児童の反応：・読み方を聞くと独特の調子が理解できた。

・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。

指導上の留意点：本時に使う具体例が見える所へ置く。現代語と同じ語順で読もうとする姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。

【展開】

学習活動：2 教科書で扱う漢文の読みと大意に親しみ、感じたことを自分の言葉で書いて表現を整える。

3 書いたものを読み返し、「響きから感じたことをどんな言葉で表すか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確かめる。

4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。

予想される児童の反応：・読み方を聞くと独特の調子が理解できた。

・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。

指導上の留意点：教師の読みを聞き、大意を確かめてから自分の感想を書く。知識・技能では、古典の大意を確かめながら音読し、言葉の響きや調子に親しんでいる。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。

評価：①教科書で扱う漢文の読みと大意に親しみ、感じたことを自分の言葉で書いて表現を整えている。

(B(1)エ) (初稿・見直した稿・修正理由)

【まとめ】

学習活動：5 音読と感想の記録を確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。

【まとめ】古典は大意を手掛かりに声に出すことで、言葉の調子や表現の特徴に親しめる。

6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。

予想される児童の反応：・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。

指導上の留意点：結論が教師の例と同じかだけで判定しない。響きから感じたことをどんな言葉で表すかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。

評価：知① (音読と感想の記録と実際の言葉の使用)・態① (単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、教科書で扱う漢文の読みと大意に親しみ、感じたことを自分の言葉で書いて表現を整えている姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。現代語と同じ語順で読もうとする場合は、教師の読みを聞き、大意を確かめてから自分の感想を書く。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には漢文の響きや調子を確認する語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に音読と感想の記録で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

